

広島県の地震

2026（令和8）年2月

目次

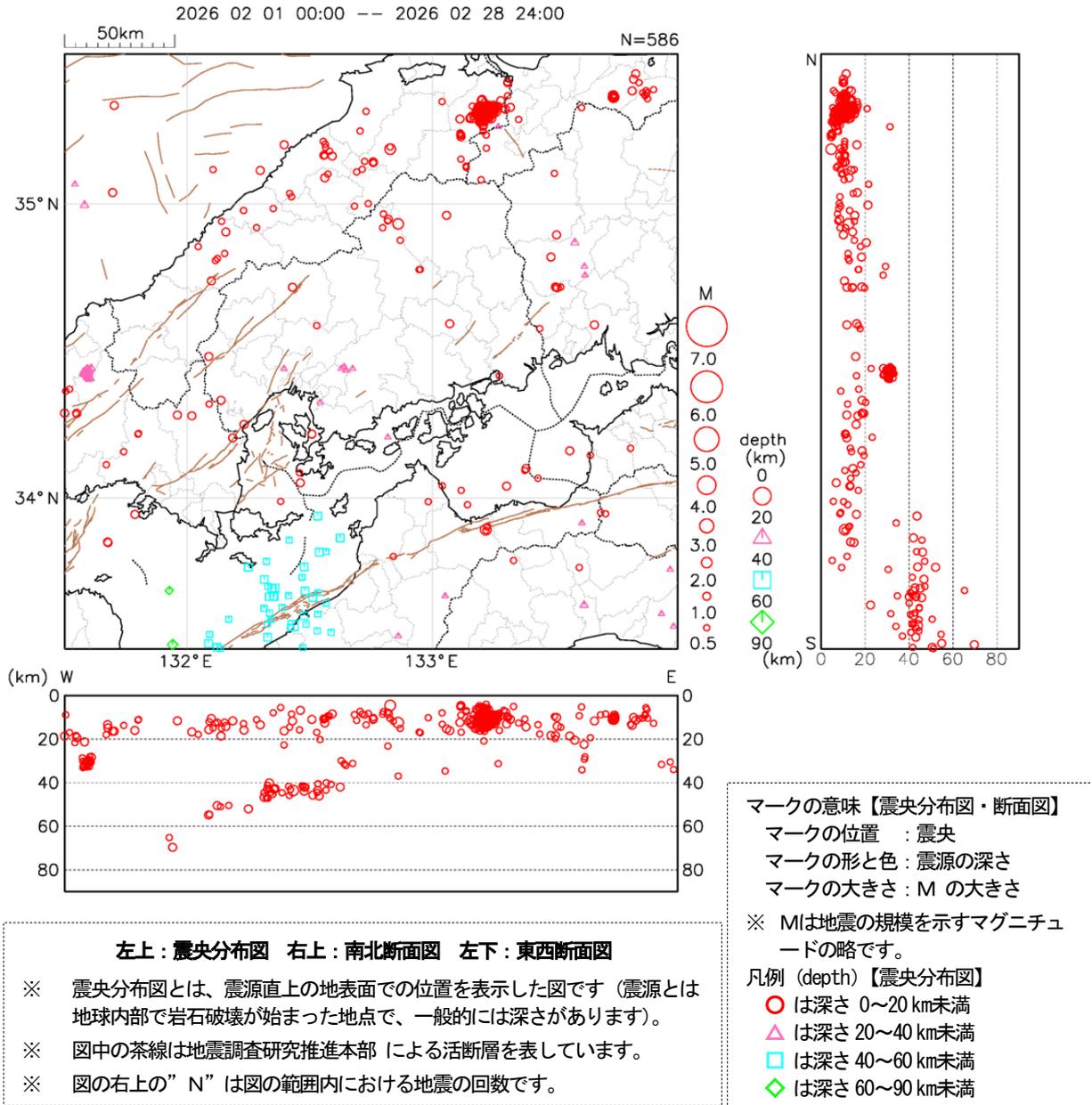
広島県及びその周辺の地震活動……………	1
震央分布図・断面図と地震概況	
広島県における震度1以上の地震……………	2
震度一覧表と震度分布図	
地震メモ 第254回……………	3
陸域の浅い地震と活断層	

広島地方気象台

広島県及びその周辺の地震活動

【震央分布図・断面図】

2026年2月1日～2月28日



【地震概況】

この期間、広島県内で震度1以上を観測した地震は1回でした（先月は20回）。

25日18時07分 四国沖の地震（深さ33km、M5.0、上図の範囲外）により、熊本県、大分県、宮崎県で震度2を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度1を観測しました。広島県では、広島市・呉市・廿日市市・府中町・江田島市で震度1を観測しました。

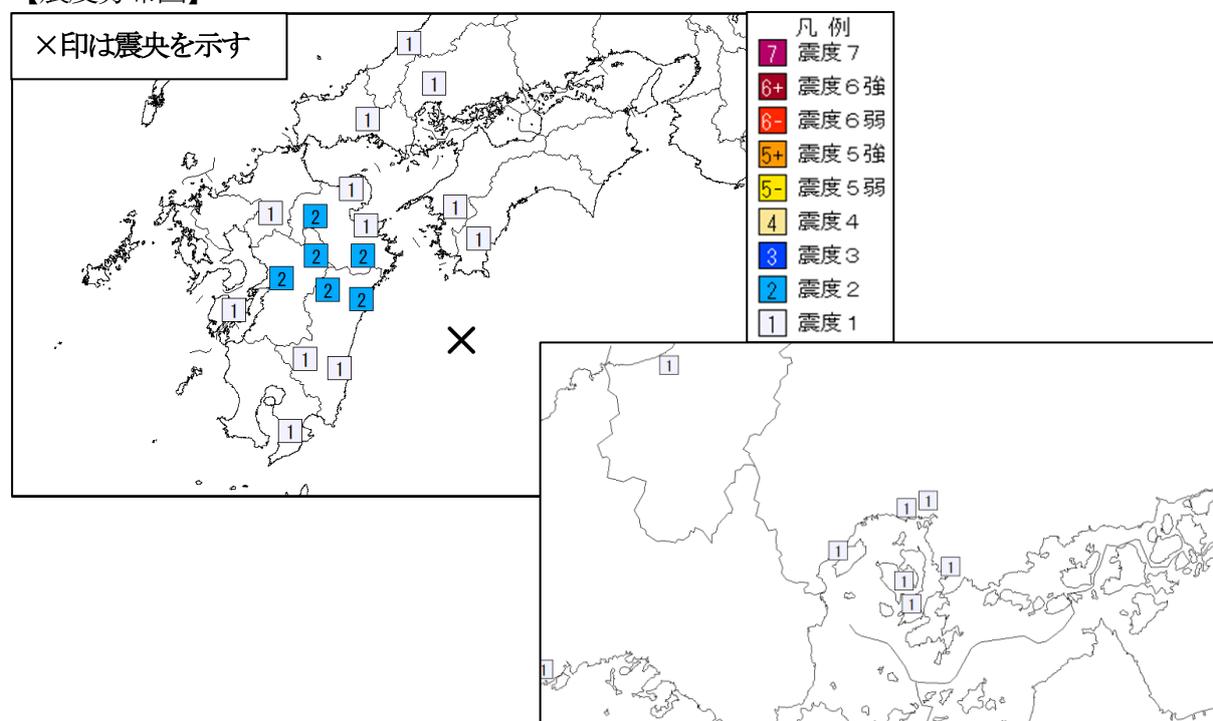
広島県における震度1以上の地震

【震度一覧表】

発震時刻（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	M
2026年02月25日18時07分	四国沖	32° 08.9' N	132° 42.2' E	33km	M5.0
広島県内の各地の震度 広島県 震度 1： 広島中区羽衣町*、呉市二河町*、廿日市市大野*、府中町大通り*、江田島市大柿町* 江田島市能美町*					

注) 震度の地名に*印を付したものは、広島県または防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

【震度分布図】



2026年2月25日18時07分 四国沖の地震

(左上) 地域震度分布図、(右下) 広島県周辺の観測点震度分布図

○陸域の浅い地震について

日本周辺では図1の通り、海のプレートが陸のプレートの方へ1年あたり数cmの速度で移動して陸のプレートの下に沈み込み、複数のプレートがぶつかりあっているため、プレート内部には大きなひずみが蓄えられています。それが限界に達したとき、岩盤がある面（断層）を境に動き地震が発生します。このため、海のプレート境界やプレート内のほか、陸域の浅い所（深さ約20kmより浅い所）でも多くの地震が発生します。これを「陸域の浅い地震」と呼びます。

今年1月6日10時18分に発生した「島根県東部の地震（M：マグニチュード6.4、最大震度5強）」も「陸域の浅い地震」です。

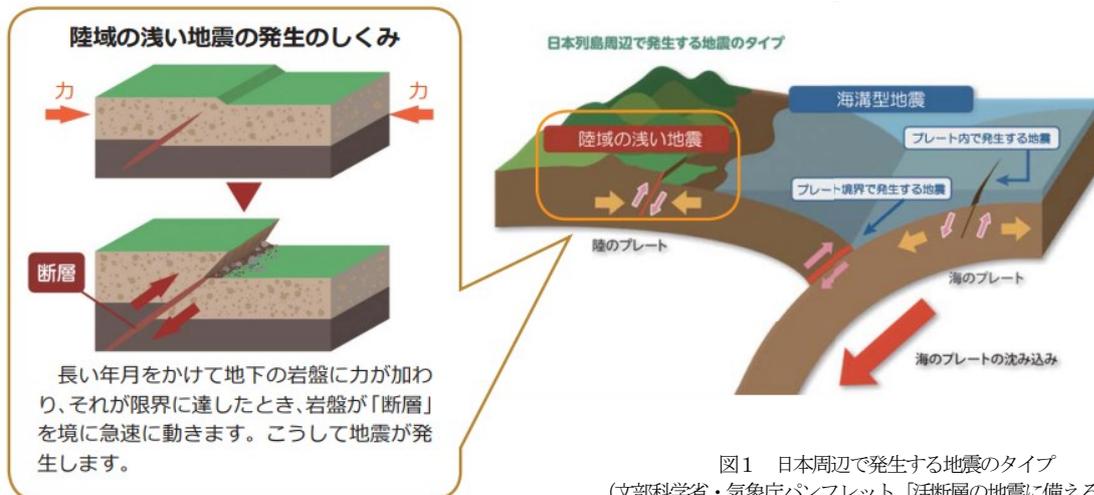


図1 日本周辺で発生する地震のタイプ
(文部科学省・気象庁パンフレット「活断層の地震に備える」より)

○中国地域の活断層の地域評価について

過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられている断層を「活断層」と言います。

日本の周辺には約2,000もの活断層があり、それ以外にもまだ見つかっていない活断層があるとされています。このため、周辺に活断層が確認されていない場所でも、被害が出るような地震が発生することがあります（例：「平成12年（2000年）鳥取県西部地震」）。

地震調査研究推進本部では、地域毎にM6.8以上の地震を引き起こす可能性がある活断層を総合的に評価する「地域評価」を行っています。

活断層の分布・特徴、地質構造や地震活動の特性を基に、中国地域では北部、東部、西部の3つの区域に分割し活断層で発生する地震の評価※を行っています（図2）。



図2 中国地域において評価の対象とする活断層及び歴史地震・被害地震（M5.5以上）の震央、中国地域の活断層で発生する地震の長期評価（地震調査研究推進本部「中国地域の活断層の長期評価（第一版）」より 一部加工）

<各区域の特徴>

北部区域：活断層は少ないが、地震活動は比較的活発。
 東部区域：活断層も少なく、地震活動も低調。
 西部区域：活断層が相対的に多く、活動性も概して高い。

※地震調査研究推進本部「地震に関する評価」：<https://www.jishin.go.jp/evaluation/>

図2から活断層が少ない北部区域でも被害地震が発生していることが分かります。

岡山県から広島県にかけては、被害地震が発生していないように見えますが、活断層の活動の周期は数千年程度と長いため、過去に被害をもたらした地震が発生していないからといって安心というわけではありません。

陸域の浅い地震の規模は、プレート境界で発生する地震に比べ小さいことが多いですが、地震が発生する場所が浅く、真上に人が住む地域に近い場合が多いため、強い揺れにより大きな被害をもたらすことがあります。

やはり地震に対しての日頃からの備えを心がけておくことが大切です。

(参考) 地震から身を守るために：

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/jishin_bosai/index.html

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

なお、本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。

広島県の地震に関する問い合わせ先

〒730 - 0012

広島市中区上八丁堀 6 - 30 広島合同庁舎 4 号館 14 階

広島地方気象台 防災管理官室 TEL : 082 - 223 - 3953